

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 2 部門第 4 区分

【発行日】平成24年11月22日(2012.11.22)

【公表番号】特表2009-524537(P2009-524537A)

【公表日】平成21年7月2日(2009.7.2)

【年通号数】公開・登録公報2009-026

【出願番号】特願2008-551841(P2008-551841)

【国際特許分類】

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

【F I】

B 3 2 B 27/30 D

【誤訳訂正書】

【提出日】平成24年10月1日(2012.10.1)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(1) ポリエチレンテレフタレート (P E T) または ポリエチレンナフタレート (P E N) のシートに結合した ポリフッ化ビニリデン (P V D F) ベースのフィルム F 1、または、(2) P V D F ベースのフィルム F 2 に結合している P E T または P E N のシートに結合した P V D F ベースのフィルム F 1 を有する多層構造物であって、

上記フィルム F 1 および / またはフィルム F 2 は、50 ～ 70 重量部の少なくとも一種の P V D F と、10 ～ 40 重量部の少なくとも一種のポリメチルメタアクリレート (P M M A) と、10 ～ 25 重量部の少なくとも一種の無機充填材とを含む (全体で 100 重量部) 組成物 A の層を有し、この組成物 A はアクリルエラストマーもコア / シェル粒子も含まず、上記組成物 A の P V D F は 87 ～ 93 重量 % の ビニリデンフルオライド (V D F) と、7 ～ 13 重量 % のフッ素化されたモノマーとから成り、

P E T または P E N のシートと 上記フィルム F 1 および / またはフィルム F 2 との間には接着剤の層が配置され、この接着剤の層は不飽和カルボン酸またはその無水物によって官能化されたポリオレフィンを含まず、また、モノマーとして不飽和酸またはその無水物によって変性されていてもよいアクリル酸、アクリレートおよびアルキルアクリレートを含むホモポリマーまたはコポリマーも含まない、
ことを特徴とする多層構造物。

【請求項 2】

P E T または P E N のシートとは反対側の上記組成物 A の層の次に P V D F のホモポリマーのみから成る組成物 C の層をさらに有する請求項 1 に記載の多層構造物。

【請求項 3】

上記のフッ素化されたモノマーがフッ化ビニル、三フッ化エチレン、クロロトリフルオロエチレン、1, 2 - ジフルオロエチレン、テトラフルオロエチレン、ヘキサフルオロプロピレン、ペルフルオロ (アルキルビニル) エーテル、ペルフルオロ (1, 3 - ジオキソール) およびペルフルオロ (2, 2 - ジメチル - 1, 3 - ジオキソール) の中から選択される請求項 1 または 2 に記載の多層構造物。

【請求項 4】

上記のペルフルオロ (アルキルビニル) エーテルがペルフルオロ (メチルビニル) エーテル、ペルフルオロ (エチルビニル) エーテルおよびペルフルオロ (プロピルビニル) エー

ーテルの中から選択される請求項3に記載の多層構造物。

【請求項 5】

上記の P M M A が 5 ～ 1 5 重量 % の C 1 - C 8 アルキル(メタ)アクリレートを含む請求項 1 ～ 4 のいずれか一項に記載の多層構造物。

【請求項 6】

C 1 - C 8 アルキルの(メタ)アクリレートがアクリル酸メチルおよび/またはアクリル酸エチルである請求項5に記載の多層構造物。

【請求項 7】

上記接着剤層がウレタン、エポキシまたはポリエステル^シの接着剤である請求項 1 ～ 6 のいずれか一項に記載の多層構造物。

【請求項 8】

上記無機充填材が金属酸化物、炭酸塩、アルミノ珪酸塩、 $B a S O_4$ 、 $Z r S i O_4$ 、 $F e_3 O_4$ 、 $S b_2 O_3$ 、 $S b_2 O_5$ 、 $A l (O H)_3$ 、 $M g (O H)_2$ 、フンタイト(huntite、 $3 M g C O_3 \cdot C a C O_3$)およびヒドロマグネサイト($3 M g C O_3 \cdot M g (O H)_2 \cdot 3 H_2 O$)である請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の多層構造物。

【請求項 9】

上記金属酸化物が酸化チタン($T i O_2$)、シリカ、石英およびアルミナの中から選択される請求項8に記載の多層構造物。

【請求項 10】

上記炭酸塩が炭酸カルシウム、ドロマイト($C a C O_3 \cdot M g C O_3$)の中から選択される請求項8に記載の多層構造物。

【請求項 11】

上記アルミノ珪酸塩がモンモリロナイトである請求項8に記載の多層構造物。

【請求項 12】

上記無機充填材がカーボンブラックまたはカーボンナノチューブの中から選択される電気伝導性充填材である請求項 1 ～ 7 のいずれか一項に記載の多層構造物。